

# Ⅲ 俳句をよもう

# 組立てと使い方

作者名と  
生没年・時代

漢字+旧仮名表記  
※難読漢字などは、かな  
に変えています。

ふりがな

\* 現代仮名での表記

俳句の  
季語と季節

注) 季語は「合本俳句歳時記」(角川書店)に準じた。  
但し、テキスト⑩の「西瓜」は  
現代の季節感に合わせて、  
季節を、「夏」とした。



あらお かいしやく  
荒尾くんの解釈

「こは、どくだろう。林の中を歩いていたら、池に出た。まわりには、いっぱい草が茂っていて、とても静かだ。ポチャン…あれ?何か飛びこんだ。カエルだ。でも、もう何も聞こえない。空気がポヤンとしている。春だなあ。」

季語: 蛙  
季節: 春

作者: 松尾芭蕉(一六四〇-一六九六) \*江戸時代の俳人

ふるいけや  
かわずとびこむ  
みずのおと

俳句をよもう

テキスト  
番号

鑑賞句

俳句の  
解釈例

俳句作りの  
テーマ

俳句  
創作欄

\* 上・中・下句の  
5・7・5マス

ケ  
ロ  
ケ  
ロ  
と

カ  
エ  
ル  
が  
な  
く  
よ

あ  
め  
が  
ふ  
り

「かえる」で俳句をつくらう

み  
ず  
の  
お  
と

か  
わ  
ず  
と  
び  
こ  
む

ふ  
る  
い  
け  
や

\* 俳句を、ひらがなで書

鑑賞句の  
書写欄

\* 上・中・下句  
分ち書き用マス

## 「俳句をよもう」の使い方

① 鑑賞句を読む

⇒ \* 鑑賞句のふりがな部分を音読する。

② 俳句の解釈を読む

⇒ \* 内容や読みが難しい場合は、省略する。

③ 鑑賞句を筆写する

⇒ \* ふりがな部分を、三行に分け、5・7・5マスに書く。

④ 俳句を詠む

⇒ \* テーマのことばを使い、5・7・5マスに俳句を作る。

★ことばのテーブルでは、できた俳句を色画用紙の短冊に書いてもらっています。

※テキストは、その時々季節に合ったページを選んで、使用していただければと思います。

かき氷  
やっきたよね  
おいしいな  
ひろこ